

公開シンポジウム

東日本大震災の

「記憶」を振り返る

本シンポジウムは、東日本大震災から15年が経過しようとする現在において、社会がいかに「記憶」を継承し、その意味を再構築していくのかを多角的に検討することを目的とする。災禍をめぐる「語り」は、単なる過去の出来事ではなく、語りの実践やメディア、教育、地域コミュニティなどの具体的な場を通していまなお形作られている。

本シンポジウムでは、被災地の語りの変遷、記録と風化の問題、世代間継承の課題、そして国レベルの科学政策・防災政策との接点などを議論する。災禍の「記憶」を固定化されたものとしてではなく、社会とともに変容する動的なプロセスとして捉え、未来の備えや共生のあり方を考える契機としたい。

3 / 9 (月)

2026年

13:00～17:20

(12:30開場)

会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

参加費

無料

こちらよりお申し込みください。



<https://forms.gle/oHascBXFZ5LwcwxG7>

対象

どなたでもご聴講いただけます。

— プログラム —

13:00 開会挨拶 豊橋技術科学大学 小野 悠
13:05 趣旨説明 関西大学 杉本 舞

講演

13:10～13:40 災禍をめぐる「語り」をみんなで形作るということ
— 3がつ11にちをわすれないためにセンターの実践
せんたいメディアテーク 甲斐 賢治

13:40～14:10 変態する「震災遺構」 岩手大学 坂口 奈央

14:10～14:40 復興の〈周縁〉から
— 「語りにくさ」を超え、にじみ出てきたもの
東北学院大学 山崎 真帆

14:40～15:00 休憩

パネルディスカッション ファシリテーター 慶應義塾大学 標葉 隆馬

15:00～16:00 パネル登壇者話題提供
東日本大震災の教訓と伝承? 東京大学 関谷 直也
災害の記憶と語りの倫理 京都大学 児玉 聡
災禍を超えて史料と歴史を残す意味 東北大学 佐藤 大介
被災者の生活とウェルビーイング 青山学院大学 菅野 早紀

16:00～16:10 小休憩

16:10～17:10 パネル討論

17:10 閉会挨拶 大阪大学 中村 征樹

総司会 岡山大学 門田 有希